

エステイマのブレーキフルード交換 (AHR20 型系:2006.6～)

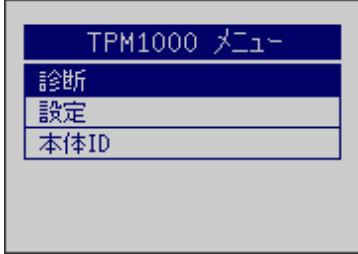

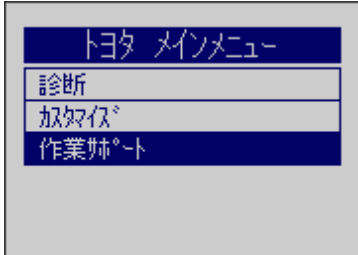

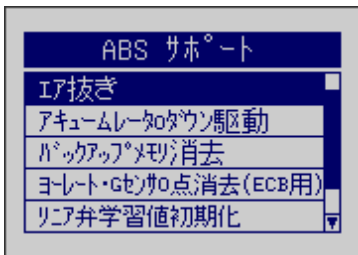
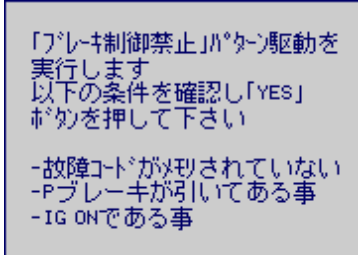
! テスターを使用せずにエア抜き、フルード交換を行うと、作業不完全となり障害や事故につながる恐れがある為、必ずテスターを使用して行って下さい。

!

- ・フルード交換はシフトレバー Pレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行います。
- ・ブレーキフルードからのフルードリースによりブレーキフルードがあふれることがある為、フルード缶はリザーバ注入口にたてないで下さい。
- ・フルード交換作業中はブレーキフルードをリザーバの MIN-MAXラインの間を保つよう補充しながら行います。
- ・リザーバのブレーキフルードホース(ブレーキフルードマスタリンクの間ホース)取り付けポートよりフルード液面を低下させ、チューブ内にエアが混入すると、フルード交換作業中のポンプモーター駆動によりアクチュエータ内にエアが噛み込み、エア抜き困難となります。
- ・フルード交換実施中にアクチュエータ圧低下によりブレーキが作動する場合がありますが、作業はそのまま続行します。
- ・フルード交換作業により、圧力センサ異常などの故障コードを記憶する場合がありますが、その場合フルード交換完了後故障コード消去を行います。
- ・塗装面にブレーキフルードを付着させないで下さい。付着した場合はただちに洗い落として下さい。
- ・フルード交換作業中、電気リカルパルピュレーションに異常警告が表示することがありますが異常ではありません。作業後、画面を操作して警告を消去します。

ブレーキ制御禁止

1. イグニッションスイッチが OFF であることを確認し、TPM1000 を車両に接続します。
2. パーキングブレーキを作用させた状態で、イグニッションスイッチを ON にします。(ブレーキペダルを踏まずに、プッシュスタートスイッチを 2 回押します)
3. [診断] を選択します。

	
4.	<p>[TOYOTA] を選択します。</p> 
5.	<p>[作業レポート] を選択します。</p> 
6.	<p>[ABS/VSC] を選択します。</p> 
7.	<p>[エア抜き] を選択します。</p> 
8.	<p>注意事項を確認し、[YES] ボタンを押し実行します。</p> 

ブレーキ制御禁止の条件が満たされていない場合は、E-が表示されます。
条件を再度確認して下さい。



通信エラー！
条件が満たされていません
条件を確認後再度行って
下さい

「YES」ボタンを押して下さい

9. ブレーキ制御禁止中です。
この画面表示中に、エア抜き作業をおこなって下さい。

エア抜き作業が完了したら
「YES」ボタンを押して下さい

フロントブレーキ系統フルード交換

10. ブレーキペダルをペダリングし、フロントブレーキシリンダ RH および LH のブリーダプラグよりフルードを抜き取ります。



・抜き取りはRH、LHの順で行います。
・リザーバ内のフルードが MIN レベル以下にならないように補充して下さい。

11. 抜き取り終了時、ブレーキペダルを踏み込んだ状態でブリーダプラグを締め付けます。

リアブレーキ系統フルード交換

12. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、リアディスクブレーキシリンダのブリーダプラグ LH をゆるめ、ポンプモータおよびリゾイド駆動中にフルード抜き取りを行います。



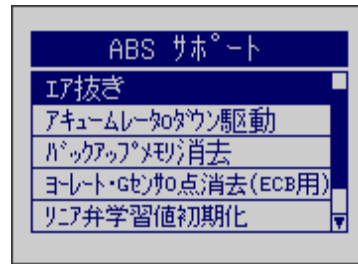
・リザーバ内のフルードが MIN レベル以下にならないように補充して下さい。
・リゾイド駆動は、約 30 秒を目安に、ペダルを離して停止させます。
・フルード交換作業中、電子制御ブレーキウォーニングランプ点灯およびブザーが吹鳴することがありますが、異常ではありません。

13. LH と同様に、リアディスクブレーキシリンダ RH のブリーダプラグから抜き取りを行います。

14. 抜き取り終了時、ブリーダプラグを締め付け、ブレーキペダルを開放します。

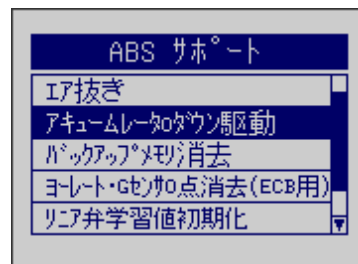
■ 参考 ■
リザーバのフルード液面が MAX レベルより 5mm ほど下にある状態でフルード抜き取りを終了すると、フルード量調整が容易に行えます。

15. エア抜き作業が完了したら [YES] ボタンを押し、 [ABS サポート] 画面に戻ります。



アキュムレータ 0 ダウン駆動実施

16. 続いて、 [アキュムレータ 0 ダウン駆動] を選択し、実行します。



17. 注意事項を確認し、 [YES] ボタンを押します。

「アキュムレータ0ダウン駆動」は
ブレーキチェンジ交換時に
実施して下さい
注意！
この作業を実施する際は、
必ず修理所の手順に従って
作業を実施して下さい
「YES」ボタンを押して下さい

18. [YES] ボタンを押し、 [アキュムレータ 0 ダウン駆動] を実施します。

アキュムレータ0ダウン駆動を
行います
注意！
「アキュムレータ0ダウン駆動」は
完了まで約20秒かかります
「YES」ボタンを押して下さい

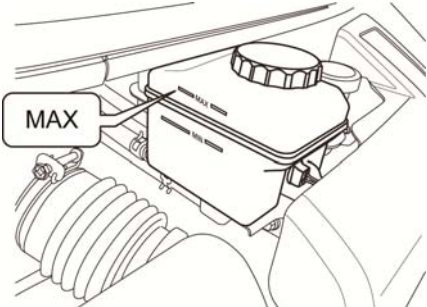
19. アキュムレータ 0 ダウン駆動です。

しばらくお待ち下さい

20.	<p>アキュムレータ0ダウン駆動が完了しました。</p> <div data-bbox="312 118 671 376" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アキュムレータ0ダウン駆動が完了しました 「YES」ボタンを押して下さい</p> <p>注意! IG OFF/ONをすると、アキュムレータの圧力が再度上昇します</p> </div>
21.	<p>ブザーの吹鳴を確認し、イグニッションスイッチを OFF にします。</p>

26.	<p>イグニッションスイッチを OFF にします。</p>
27.	<p>TPM1000 を車両から外します。</p>

フルード量点検・調整

22.	<p>アキュムレータ0ダウン（アキュムレータ圧抜き）実施後、アキュムレータ内のフルードをリザーバに戻した状態でマスタシリンダリザーバのブレーキフルード液面が MAX レベルになるようフルード量を調整します。</p> 
-----	--

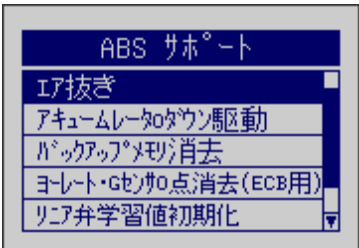


・スポイトなどを使用して液量を調整する場合、鉱物油、水、劣化したブレーキフルードを扱ったものは使用しないでください。シール部品劣化やフルード劣化となり、フルード漏れ、効き不良の原因となります。

23.	<p>イグニッションスイッチ ON 後、マスタシリンダリザーバのフルード液面が MAX レベルよりやや下にあることを確認します。</p>
-----	--

■ 参考 ■

アキュムレータ0ダウン(アキュムレータ圧抜き)実施後、イグニッションスイッチを ON するとアキュムレータにフルードが蓄圧され、液面は低下します。

24.	<p>[YES] ボタンを押し、[ABS サポート] 画面に戻ります。</p> 
-----	---

25.	<p>[NO] ボタンを何度か押し、[トヨタメニュー] まで戻ります。</p>
-----	---